

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 9 月 1 日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
検証テーマ： 小池都知事と「防災の日」、マケイン氏追悼式典 アメリカが UNRWA への資金拠出中止を発表、派遣法改正から 3 年 【特集】 沖縄県知事選挙		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大気不安定、今夜も大雨に警戒を ・ 台風 21 号、非常に強い勢力で接近化 ・ 「防災の日」 関東大震災から 95 年 ・ 小池都知事と「防災の日」 ・ 不動産会社「TATERU」、顧客の預金残高を改ざんし銀行に融資依頼 ・ 「ソウルの女王」アレサ・フランクリンさんの葬儀 ・ マケイン氏追悼式典 ・ 体操協会 ・ 奈良市の国道、バイク事故で 8 人死傷 ・ アメリカが UNRWA への資金拠出中止を発表 ・ 派遣法改正から 3 年 ・ 東京巣鴨に不明者の家族に向けた相談所 ・ 葛飾区のアパートで 50 代の兄弟とみられる遺体が発見される ・ 【特集】 沖縄県知事選挙 ・ 【特集】 青森のいじめ自殺、家族の闘い ・ スポーツ報道 		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→特に問題なし オープニングでは金平キャスターが「学校でのいじめがなくなる理由の一つは実際にいじめがあった後に学校や教育委員会などが現実に徹底的に向き合わないという姿勢があります。厄介なことはなかったことにしたい。一部の政治家や官僚のようなおぞましい動きを教育者にはとってほしくない、私はそう思います。今日の特集でお伝えします。」と発言していた。この発言に当てられた時間は 22 秒で、放送法上の観点から明確に問題があるというものではなかった。 ・ 小池都知事と「防災の日」：結論→特に問題なし 東京墨田区の公園で関東大震災の犠牲者を痛む大法要が開かれ秋篠宮様ご夫妻や遺族らおよそ 600 人が参加したこと、同じ公園内では震災の混乱で朝鮮人が暴動を起こしたなどのデマが広がったことで殺害された朝鮮人を追悼する式典も開かれたこと、関東大震災の時に虐殺された朝鮮人の犠牲者を追悼する式典に対して小池知事が 		

去年に引き続き追悼文を送らなかったことに主催者が抗議したことが報じられた。また、日朝協会東京都連合会事務局長の赤石英雄氏の「2年連続して追悼の辞を寄せてこなかったということで私達も非常に憤りを持っておりますし。」というコメントが取り上げられると共に、膳場キャスターが「この理由について小池知事は去年と同じく大法要ですべての犠牲者に哀悼の意を表している、と説明しています。」とも述べていた。

このトピックについて当てられた時間は 65 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・マケイン氏追悼式典：結論→特に問題なし

25 日になくなったアメリカ議会の与党共和党の重鎮ジョン・マケイン上院議員の追悼式典が首都ワシントンの連邦議会議事堂で行われましたこと、議事堂の大広間に棺が安置されるのはアメリカ社会に大きな影響を与えた人物としてリンカーン元大統領らの例がありマケイン氏が 31 人目だということ。式典には与野党の議員が党派を超えて出席した一方でトランプ大統領は出席を見送ったとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 33 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・アメリカが UNRWA への資金拠出中止を発表：結論→特に問題なし

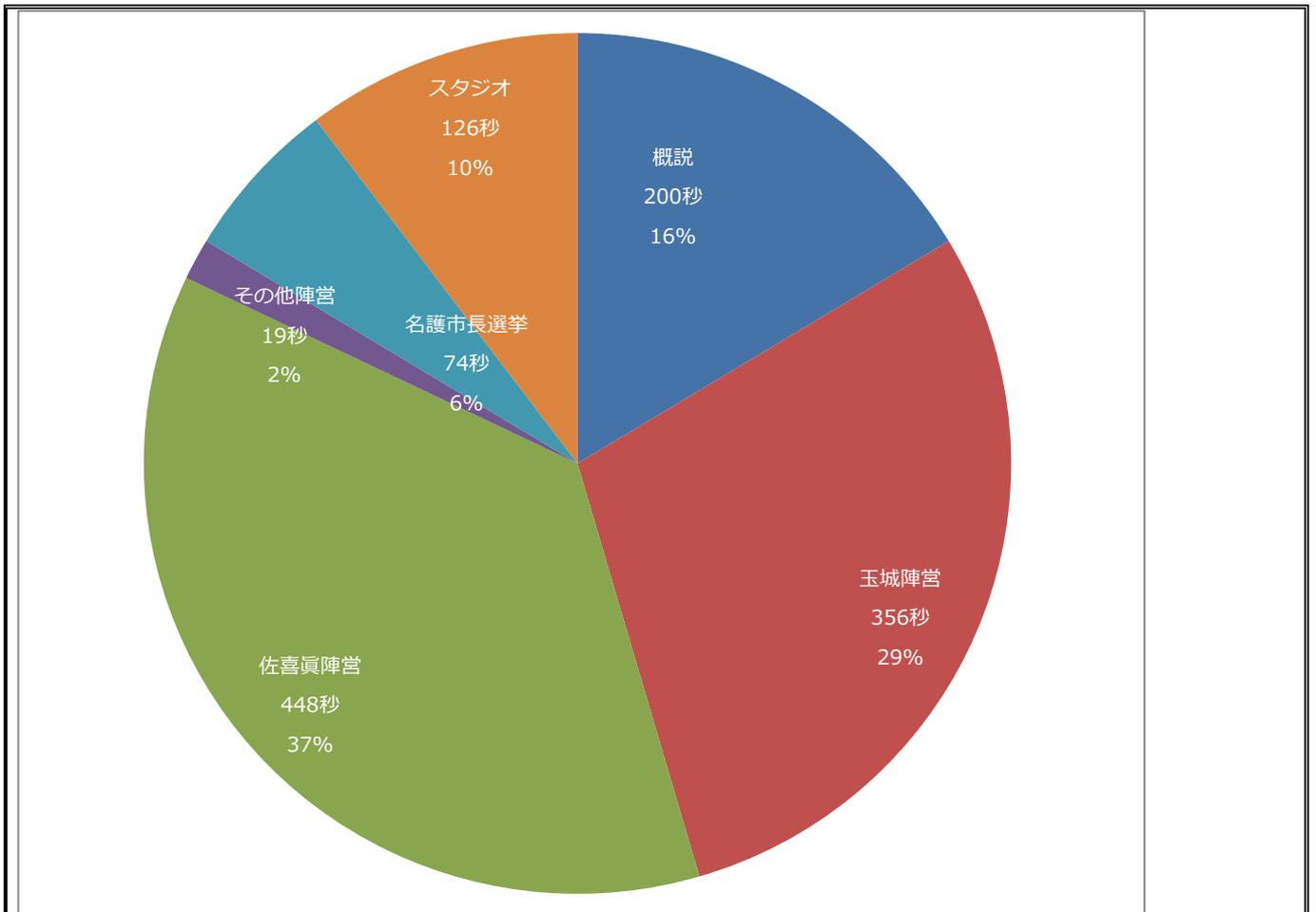
アメリカ国務省のナウアート報道官が国連のパレスチナ難民救済事業機関 UNRWA への資金の拠出を中止すると発表したこと、ナウアート氏は UNRWA について受益者が拡大し続け持続不可能だと指摘したとのこと、アメリカによる拠出金は UNRWA の予算の全体のおよそ三割を占めていること、この決定を受け UNRWA の報道官は深い遺憾と失望を表明しもっとも強い言葉で拒絶する、と述べていることが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 32 秒で、放送法の観点からは特に問題は見られなかった。

・派遣法改正から 3 年：結論→特に問題なし

派遣労働者が同じ場所で働ける期間を 3 年までとした法律の改正から今月末で三年になるのを前に電話で相談を受け付けるホットラインが開設されていること、改正労働者派遣法では派遣労働者を同じ事業所で 3 年を超えて継続雇用する場合について事業主は労働者を社員にするなど雇用を安定させる措置をとることが定められていること、ホットラインを開設した NPO によると、法改正から三年となるのを前に派遣会社から雇い止めされたなどの相談が相次いでいるということが、伝えられた。また、派遣労働ネットワークの関根秀一郎さん氏の「まずは私達のところにご相談いただいて、自分たちにはどういう権利があるのか、ということを知っていただきたいなあと思います。」というコメントが取り上げられていた。このトピックについて当てられた時間は 59 秒で、放送法の観点からは特に問題は見られなかった。

・【特集】沖縄県知事選挙：結論→問題あり

沖縄県知事選挙について取り上げられていた。この特集に当てられた時間は 1223 秒で、概要の説明、デニー玉城陣営、佐喜眞淳陣営、その他の陣営、名護市長選挙のそれぞれにスポットを当てた場面、スタジオでの討論という場面に大別された。それぞれの時間配分及び比率は以下の通りであった。



概説では、普天間基地の辺野古移設について沖縄県は承認後に軟弱地盤の問題が判明したことなどを理由に昨日、仲井真知事の時代に決めた埋め立て承認を撤回したこと、これを受けた政府の小野寺五典防衛相の「処分理由の精査を行い、そのうえで必要な法的措置をとることとなると思っております。」というコメントを出したこと、基地問題をめぐって国と県が全面对決する中で今月 30 日に沖縄県知事選挙の投票が行われるということが伝えられた。また、かつて自民党の支援を受けて選挙を戦った稲嶺恵一元知事への以下に朱記したインタビューが取り上げられていた。

ナレ「かつて自民党の支援を受けて選挙を戦った稲嶺恵一元知事。翁長知事と親しく、葬儀では弔辞を読んだ。今回の知事選をどう見るのか。」

稲嶺氏「片方はともかく翁長さんの弔い合戦に。徹底的にその一本に持っていきたいと思うんですよ。片方とするとですね、それは避けたいというそのある意味のすれ違いの形になりますね。私は何とか感情的にならない範囲でね、感情を抑える中で後に尾を引かないような形での選挙戦であってほしいというのが強いですね。」

ナレ「自身が県知事を務めた時と今とでは、国と沖縄県との関係が変わってきていると話す。」

稲嶺氏「今の国と、この沖縄県との間はずいぶんその落としどころを見つけるということではなくてですね、この全面的な対決になってしまう」

金平「黒か白か」

稲嶺氏「これは非常に不幸なことですし、もう一つはですねそれでは次のステップはどう進んでいこうか、どう解決していこうかということがなかなか見だし得ないという非常にその意味では今ですね私自身も一切離れた形ですが、離れてみてみてですねこのどっちかで言うと寂しさみたいのを感じますね。」

玉城陣営では出馬会見の場について以下に朱記した 2 つのシーンが取り上げられていた。

【シーン1】

ナレ「翁長雄志知事の死去に伴い、今月 30 日に行われる沖縄県知事選挙。保守・革新の枠を超え、翁長県政を支えてきたオール沖縄が支援するのが、衆院議員の玉城デニー氏だ。」

玉城デニー氏「来たる県政においてわたくしは、しっかりと翁長知事の遺志を引き継ぎ、辺野古新基地新設阻止を貫徹する立場であることをここに表明いたします。」

ナレ「出馬会見の場には、翁長知事の青い帽子が置かれていた。謝花副知事の他、沖縄経済界の重鎮、金栄グループの呉屋守将会長も同席した。」

玉城氏「今回、翁長知事の言葉の中に、玉城デニー君は戦後の沖縄を象徴する政治家だということが語られたこと。米国人の父を持ち、日本人の母を持つわたくしは、ある意味で言うと、翁長知事がおっしゃっていたように、戦後沖縄の象徴的な存在であるかもしれません。」

【シーン2】

ナレ「玉城氏は出馬会見でこう強調した。」

玉城氏「イデオロギーよりアイデンティティーの言葉は翁長知事から受け継いだ大切な理念です。」

ナレ「辺野古の新基地建設阻止を訴えている。」

玉城氏「私は承認撤回を支持しておりますし、この選挙でも多くの県民の皆さんにその思いをしっかりと伝えていきたいとそう思います。」

記者「こう翁長知事は生前、辺野古埋め立て阻止の万策が尽きたら、夫婦二人で座り込むんだとおっしゃってましたが、玉城さんはどうでしょうか？」

玉城氏「ちょっとそばにいる人に聞いてみたいと思います。万策尽きたらいかがいたしまししょうか？」

玉城デニー氏の妻 智恵子さん「座り込みます。」

ほか、金平キャスターのインタビューとかつての玉城氏の映像を交えながら玉城氏の人となりを紹介する以下に朱記したシーンが取り上げられた。

ナレ「玉城氏はアメリカ軍基地の海兵隊員と、沖縄の女性との間に生まれた。」

玉城氏「おなかの中に僕を宿したときに父はアメリカに戻るといふそういう命令になってもうアメリカに行かないと決めた母はもうこれ以上後戻りしたくないということで、父が送ってきた手紙や写真を全部焼いちゃったんですよ。ですから私はあの一父の顔もどこに住んでいたかも知らないんです。」

ナレ「住み込みで働いていた母のもとを離れ、母の友人に育てられた。その育ての親の教えを大事にしていると話す。」

玉城氏「見てくれていじめられたり、差別されたりしている僕を見るとやっぱり苦しかったんだと思うんですけども、10本の指は同じ長さや太さじゃないよと。人間みんな個性だよと。トゥールタケーナイーリタケーネナ10本の指はみんな同じ高さじゃないよみんな違うよと。つまりみんな違うけれどもそれぞれが指の役割を果たしているでしょということを教えてくれるんですよ。」

ナレ「玉城氏は福祉関係の専門学校を卒業後、地元ラジオ局のDJとして人気を博す。」

玉城氏「皆さんもどうぞここから、この沖縄からキャンペーンがスタートする。」

玉城氏「ゴーヤーの魅力を紹介しましょう」

玉城氏「英語言葉はあね」

ナレ「タレントとして活動後、市議会議員を経て、2009年の衆院選で民主党から出馬し、初当選。現在は小沢一郎氏が代表の自由党で幹事長を務める。」

金平「よしっていう風に決めた瞬間というのは、今から振り返るとですよ、いつだったという風におもわれます

か？」

玉城氏「最終的に私が本当に決断をしたのは、28日ですね。前日です。」

金平「じゃあ前日？それはだって東京にいらしてたじゃないですか？」

玉城氏「はい。東京に行って小沢代表と各党を回らせていただいて、各党の皆さんがもう、万全の状態ですと、という言葉だったり、もう徹底してやりますという言葉だったり、皆さんがやっぱりこの沖縄の知事選が中央でも安倍政権に対する一つの民意だと、いうことを、見せてほしいという気持ちも同時に私に伝わったんですね。」

ナレ「翁長知事は亡くなる直前、後継候補の一人として玉城氏を挙げ、その音声が残されていたという。」

玉城氏「率直に言って本当に僕なんですか？って聞いて、うん。デニーさんの名前があったと。」

金平「じゃあそれも今から考えると大きかったんでしょ。」

玉城氏「あの、それが無かったら私はおそらく固辞していたと思います。私の名前が翁長知事の言葉として残っているよということを聞かなければ。」

佐喜眞陣営については、佐喜眞氏が世界一危険といわれる普天間飛行場を中心部にかかえる宜野湾市で生まれ育ったこと、2001年に政界入りし宜野湾市議そして沖縄県議を務めた後2012年に宜野湾市長に当選し2016年にはオール沖縄の候補を大差で破り再選したこと、2期目の当選の時には得意の空手演武を披露し、これまでに立候補した選挙は当選した負け知らずの政治家であること、普天間飛行場の早期返還を訴える佐喜眞氏はこれまでたびたび総理官邸を訪れ安倍総理や菅官房長官と面会するなど太いパイプを持つこと、普天間飛行場返還後の跡地にディズニーリゾートを誘致する計画を政府に提案したこともあるということなど、佐喜眞氏のこれまでの歩みが紹介された。

また、佐喜眞氏への金平キャスターのインタビューで以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレ「昨日、沖縄県が辺野古埋めたての承認撤回を発表した直後、記者団の取材に応じた際も」

金平「佐喜眞さんは辺野古については今後の選挙戦でですね姿勢を明らかにされますか？」

佐喜眞氏「国が訴訟っていうんですか。法的措置も考えている措置っていうかをを取るという話ですから法治国家でございますので、この法治国家の中でどういう判断されるかってことも含めて、私どもは行政の長として今回、選挙を受けるわけですが、行政の長として今後の法的っていうかそういうことに注視をしながら、仮に私が知事になった場合はそういうことを踏まえながら判断して行きたいと思います。」

金平「いや県が辺野古を建設阻止の実現に向けて、今後とも全力で対応していくってんですよ。ですからそのことについて選挙戦で姿勢を明らかにされますかってことをお聞きしたい。」

佐喜眞氏「あの私は何度も申し上げますけれども、これは県の今の県庁内の考え方であると思いますし、私が常々申し上げているのは、原点ということをお忘れなく、普天間飛行場の問題は誰もがやはり真剣にとらえながら解決しないといけない」

加えて、佐喜眞氏を推薦する公明党の沖縄県本部金城勉代表へのインタビューについて以下に朱記した様子が取り上げられていた。

ナレ「辺野古への基地移設に反対を表明してきた公明党沖縄県本部。四年前の県知事選では自主投票としたが、今回は佐喜眞氏の推薦を決めた。」

ナレ「金城勉代表にきいた」

公明党沖縄県本部代表 金城勉県議「基地問題にこう翻弄されたといいますが、そういうことがあって結局県政というのは県民生活の総合的な政策展開を推進していかなくちゃいけない。基地問題についての課題もありながらその他の県民生活を前進させていくためには今回の選択として、佐喜眞さんを推薦をしてその流れを作っていく

たいと。そういう判断になりました。」

ナレ「推薦にあたって公明党沖縄県本部が佐喜眞氏と結んだ政策協定には経済発展や日米地位協定の改定、基地負担の軽減などが盛り込まれているが、辺野古については触れていない。」

金平「もしね、県内に移設するということになると、そのここに書かれてる基地負担の軽減ということにつながりますか？」

金城氏「つながりませんね。」

金平「あ一つながらない。そこはやはり公明党として忸怩たる思いがある？」

金城「はい」

金平「それはしかしなかなか言えないという。」

金城「そこはね、あの一やっぱりお互いに協定書に調印するということになると、あの一すべてが合意するというわけにはいきませんから、」

金平「合意できた部分だけを書かれたと？」

金城「合意できる部分についての表現というわけになりますね。豆腐を切るようにスパッスパッとこう、切り分けられるような今、沖縄の政治環境じゃないですから。だからその辺の苦渋の思いというのはですね、わたくしもよく理解しているつもりです」

さらに、自民党沖縄県連会長の国場幸之助衆院議員へのインタビューについて以下に朱記した様子を取り上げられていた。

ナレ「今回の県知事選では辺野古移設について語るのか。自民党沖縄県連会長の国場幸之助衆院議員は」

国場氏「沖縄県民が望んだわけでもない、この基地問題に翻弄される時代からはもう脱却をしなければならないと私たちは考えております。ですから佐喜眞さんはしっかりとこの普天間の一日も早い解決というものはこれは誰も反対がないんですよ。まずはその部分から問題の解決というものを糸口を課題設定というものをやらなければいけないと。」

金平「辺野古のへの字も言わないみたいなことが、もし選挙戦通じてずっと佐喜眞さんの陣営の基本的な方針だとするとですね、なんかこう率直なこと言うと逃げてるんじゃないかみたいなね。そういう印象を受けられるんじゃないかっていう風にとと思う」

国場氏「なるほど、もう率直に言いますと問題の所在はどこにあるかっていう部分ですよ。それは普天間飛行場なんです。実際に事件や事故が続出しているわけですから。それをいかに一日も早く解決していくのかそこに課題を設定しなければいけない。このです、その部分です。」

その他の陣営については、不動産鑑定士の山口節生氏。自営業の南俊輔氏、料理研究家の渡口初美氏も出馬の意向を表明しているということが伝えられた。

沖縄県知事選挙の前哨戦と言われた今年 2 月の名護市長選挙については、辺野古移設反対を掲げる現職の稲峰進氏を破り移設の是非を明言しなかった自民・公明・維新推薦の戸口武豊氏が当選したこと、この選挙で自民党がとった戦術は辺野古移設を争点にしないというものだったことが伝えられたほか、当時の自民党が現地に応援にくる国会議員らに渡していたとされるメモに記されていたことについてナレーションで「NG ワード、辺野古移設。辺野古の『へ』の字も言わない。オール沖縄側は辺野古移設を争点に掲げているが、同じ土俵に決して乗らない！」と読み上げられていた。

VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「金平さん今回の沖縄県知事選について、県知事選でも辺野古について自民党の戦術というのは徹底しているようですね。」

金平「そうですね。あの玉城デニーさんは辺野古の新基地建設反対を政策の柱に据えて、明確に主張しているんですけども、それに対して佐喜眞氏の方はですね普天間基地の移設は言うんですけども、どこにっていうのは一切言わないんですよ。つまり普天間は言うけども、辺野古への字もいわない。これは関係者の間では市長選で勝利した名護方式って言われてるんですけども、今のところその踏襲をしているんですよ。まあだから争点ぼかしじゃないんかっていう声の一部の有権者から聞かれますですけども、果たして有権者にとってそれでいいのかなって投票するときに判断できないじゃないかっていうそのことも含めて候補者同士の討論会っていうのをですね複数回きちんと開いていただきたいと思いますね。」

日下部「選挙のたびに沖縄の人たちっていうのは難しい判断を迫られて、時として社会が真っ二つに割れたりしてしまって、我々はですね、沖縄の負担軽減と口では言うんですけども、こういった重い課題をですねずっと沖縄の人たちに背負わせて来たわけですよ。」

金平「なんかね、長い間取材していると本土と沖縄の間には何かいじめに似た構図があって、本土が押し付ける理不尽に対して抗う人もいれば、なんか妥協する人もいるみたいなね。あの一翁長さんの遺志が継がれるのか、それとも頻出するのかっていうまあ後一か月を切った選挙戦なんですけれども、おそらくかなり激しい戦いになるんじゃないかなという風に思われますね。」

今回の特集について、基地問題を主軸としたオール沖縄 vs 自公+維新という対立軸でこの報道を見るのであれば、スタジオでの議論が非常にオール沖縄に好意的であることを踏まえるとこれは実質的に玉城陣営を取り上げた時間に加算して評価することが適切であり、両陣営についての時間配分は概ね公平であったと言える。しかし、それ以外の出馬の意向を表明している候補について取り上げた時間は微小であり彼らの掲げる政策や主張・争点については触れられずしなかったこと、放送時点が9月1日で投票日が9月30日と選挙戦も序盤であることを踏まえると、既存の政党の支持が得られなかった候補に対する扱いがあまりにも不当に軽すぎやしないだろうか。そうした点から放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」に反する可能性がある。また、基地問題を中心とした対立軸に収まらない候補を軽く扱うことで沖縄県知事選挙における基地問題以外の争点を明らかにすることを妨げており、これは同四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らし合わせても問題がある報道と言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

オープニングでは金平キャスターが「学校でのいじめがなくなる理由の一つは実際にいじめがあった後に学校や教育委員会などが現実的に徹底的に向き合わないという姿勢があります。厄介なことはなかったことにしたい。一部の政治家や官僚のようなおぞましい動きを教育者にはとってほしくない、私はそう思います。今日の特集でお伝えします。」と発言していた。確かに、「厄介なことはなかったことにしたい」であるとか「厄介な現実に向き合わない」という姿勢は学校や教育委員会や一部の政治家や官僚にはあるのかもしれない。しかし、様々な「厄介事」の中から報道として取り上げるものとそうでないもの、取り上げるものの中でも重点的に取り上げるものと軽く取り上げるものなど、あるいは取り上げるものの中でもそれを構成する要素をどう取り上げるかなど、取り上げる対象の選定やアジェンダセッティングには報道機関による恣意性や政治的選好が見え隠れするケースも多々ある。例えば、今回の沖縄県知事選挙の報道にしても最初から基地問題を争点にオール沖縄推薦候

補 vs 自公+維新の推薦候補という構図で報じた一方でこの2つの勢力に属さない他の候補については掲げる主張や争点すら取り上げていなかったが、これも見方によっては「基地問題」という厄介事を取り上げる一方で、基地問題を中心とした対立軸にまとまらないそれ以外の厄介事というのに視聴者を向き合わせようとしていない、とも言える。

このように、「厄介なことはなかったことにしたい」というのは、なにも政治家や官僚あるいは教育者に特有な問題ではなく、「厄介なことを取り上げない」あるいは「他の問題を大々的に取り上げることで厄介なことへの注意をそらす」というのは報道機関にも見られる問題である。報道機関関係者のこうした発言についてはしっかりと記憶に留めた上で今後の検証活動を行いたい。

・アメリカが UNRWA への資金拠出中止を発表

アメリカによる拠出金は UNRWA の予算の全体のおよそ三割を占めていながら、アメリカが拠出中止を発表したことに対して UNRWA の報道官が「深い遺憾と失望を表明しもっとも強い言葉で拒絶する」と述べていることについて、これまでの経緯について今回の報道では取り上げられていないが、拠出を受ける側とは思えない強気な発言であり、こうした拠出金が一種の既得権益と化しているのではと感じた。

・【特集】 沖縄県知事選挙

スタジオでは日下部キャスターが「選挙のたびに沖縄の人たちというのは難しい判断を迫られて、時として社会が真っ二つに割れたりしてしまっ、我々はですね、沖縄の負担軽減と口では言うんですけども、こういった重い課題をですれずと沖縄の人たちに背負わせて来たわけですよ。」と述べ、それに対して金平キャスターが「なんかね、長い間取材してると本土と沖縄の間には何かいじめに似た構図があって、本土が押し付ける理不尽に対して抗う人もいれば、なんか妥協する人もいるみたいだね。あの一翁長さんの遺志が継がれるのか、それとも頻出するのかっていうまあ後一か月を切った選挙戦なんですけれども、おそらくかなり激烈な戦いになるんじゃないかなという風に思われますね。」と応じていた。

確かに、日下部キャスターのいうように選挙のたびに沖縄の人たちは難しい判断を迫られ時として社会がまっふたつに割れたりすることもあるだろうし、「我々」（というのが具体的に誰を指しているか誰を指していないかはわからないが）の一部は「沖縄の負担軽減」と口では言いながらも重い課題を沖縄に背負わせてきた、というのは事実かもしれない。また金平キャスターのいう「金平キャスターが「なんかね、長い間取材してると本土と沖縄の間には何かいじめに似た構図があって、本土が押し付ける理不尽に対して抗う人もいれば、なんか妥協する人もいるみたいだね。」というのも一面の事実なのであろう。しかし、この報道特集を検証し始めてから暫く経つが沖縄基地問題について沖縄への取材はしばしば取り上げられるものの、この問題に対する本土側の対応や反応あるいは本土の市民の空気感というものはほとんど取り上げられてこなかった。

確かに、沖縄側の視点に立つて場合には主観的には「いじめに似た構図」があるように感じられるのかもしれないが、本土の視点に立った場合には、日下部キャスターのいうような沖縄の負担軽減を口では言う人々が多いにもかかわらず重い課題を沖縄に背負わせてきたのであれば「いじめに似た構図」があるといえるのかもしれない。しかし、沖縄の負担軽減について口では熱心に言う人々は本土の人間の中でも一部でしかなく本土の人間の大半が沖縄基地問題に興味も関心もないというのであれば、「いじめに似た構図」とはまた違った構図になってくるだろう。

沖縄基地問題を巡って本土と沖縄の関係について言及しながら、本土側についての取材は特集ではほとんど取り上げられていない、という状況は沖縄基地問題や本土と沖縄の関係を考える上でいささか厄介かもしれないが

TV 報道検証【報道特集】 報告書

重要であるはずの、沖縄の事情に対する本土の反応や空気感という要因に対する番組側や金平キャスターの「厄介なことはなかったことにしたい」という姿勢のあらわれではないのだろうか。